

会 議 記 録

次の会議（委員会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	令和7年度 第2回 近江八幡市教育委員会活動の点検・評価委員会		
開催日時	令和7年7月28日（月）10時00分～17時00分		
開催場所	近江八幡市役所南別館（水道事業所）3階A・B会議室		
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	<div>出席者（敬称略）</div> <div>委員長 脇田 健一（◎）</div> <div>副委員長 西田 佳成（○）</div> <div>委員 小川 貴子</div> <div>委員 重森 恵津子</div> <div>委員 大更 秀尚</div> <div>欠席者</div> <div>委員 圓山 淳子</div> <div>事務局</div> <div>教育長 安田 全男</div> <div>教育部長 太田 明文</div> <div>教育総務課、学校教育課、生涯学習課、スポーツ課、学校給食センター、図書館、幼児課</div> <div>傍聴者 なし</div>		
次回開催予定日			
問い合わせ先	所属名、担当者名	教育委員会事務局教育総務課、岡田・但田	
	電話番号	0748-36-5539	
	メールアドレス	040200@city.omihachiman.lg.jp	
会議記録	発言記録 ・ <div>要約</div>	要約した理由	内容を整理して、分かりやすく記録として残すため
内容	別紙のとおり		

担当課⇒総務課

1. 開会、あいさつ

省 略

2. 事前打ち合わせ

- 第1回委員会の会議録（要約）の確認、本日の進め方

省 略

3. 議事（ヒアリングの実施）

- 「点検・評価シート」に基づき、各所属からの説明、質問等
  - ① 施策3（不登校やいじめ・問題行動などへの取組や支援の充実）
  - ② 施策14（学校園・家庭・地域が一体となって子どもの育成に取り組む体制の確立）
  - ③ 施策8（地域の歴史や伝統、文化に学ぶふろさと学習の推進）
  - ④ 施策11（教員の資質・指導力の向上と学校園の組織力の充実）
  - ⑤ 施策5（就学前からの学びをつなぐ校種間のなめらかな接続の推進）

省 略

3. 議事（ヒアリング施策及びその他の施策についての意見交換）

- |       |   |
|-------|---|
| 委 員   | ● 施策3「不登校やいじめ・問題行動などへの取組や支援の充実」で、「専門性」ということが出てきたと思いますが、より多くの先生方に研修や教養を高める、いろんなことを自分のものにするような機会が必要だと思います。また、年間の中でのミッションがあつて、前期はこんなことを、後期はこんなことを、もう少しはっきりと、来年度または今年度に取り組んでいきますということになればいいと思います。 |
| 委 員 長 | ● それぞれ個々の教員の専門性・知見を高めることに対する具体策がないというご意見ですね。例えば「いじめ問題」だと、ここがポイントで、1学期はこの点について見識を深められるように、先生を呼んでスーパーバイズしてもらいましょうとか、そういうイメージですね。  |
| 委 員   | ● 教育相談体制について、時間外に先生が対応するのは教員が疲弊してしまうので、新しい教育相談センターができるのであれば、そこでできることはそういう仕組みづくりをしないと、勿論、切迫した内容に関しては専門性が必要ですが、まず話を聞いてもらって、どこかに繋ぐようなレベルであれば、先生の働き方も踏まえて、考えていただけたらと思います。                         |
| 委 員   | ● 施策14「学校園・家庭・地域が一体となって子どもの育成に取り組む体制の確立」で、皆さん、PTAの必要性は感じていると思いますが、自分が役員を引き受けるとか負担感があつて、加入しないのかなあと、例えば、コミュニティスクールについて興味がある人、PTAって必要だと考えている人、ボランティア意識のある高校生や大学生が入ること                            |

委員 長	<p>によって、人材確保という部分も解決していくのかなと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「学校盛り上げ隊」のような、それで教員の方たちとも相談して「学校がこうなったらいいよね」というアイデアが出てくれば、もっといいですね。PTAという枠組だと、義務感や負担感などネガティブな面があるかも知れませんが、ちょっと違う活動になると、可能性がある気がしますよね。従来の伝統的な組織が制度疲労している中で、機能不全に陥っている状況を、何か新しい仕掛けでどう補っていくのか、代替していくのか、これは自治会活動もそうで、やる気の出る仕組みができればいいなと思います。そうすると、学校だけの話ではなくて、よく言えば「自治の問題」「自分たちの暮らしている地域をどう支えていくのか」という市民としての自覚をどう涵養していくのかですよね。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 施策8「地域の歴史や伝統、文化に学ぶふるさと学習の推進」で富士宮市との児童交歓会ですが、どうしても7月開催じゃないと日程的に難しいですか。近年の猛暑の影響から、十分な対策をしたとしても、やはりこの時期は厳しいと思います。</li> </ul>
委員 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 施策全体に関して、施策間の繋がりをもう少し意識すると、より総合的な取組事例ができるのではないかと思います。親和性や関連している取組が施策を超えて実施されているので、組織の縦割りの必要もなく、ワークライフバランスの観点からも、教育の効果を得られるのであれば、いろいろ整理して、実施していくといいと思います。学校と地域の連携の在り方など、一緒に考えてやると、最初は大変かも知れませんが、上手く整理されていくと、郷土愛の教育は郷土愛の教育とか、それぞれ取り組まれています、結構同じお皿の上に乗っているのではないかと思います。どう捉えるかは別ですが、そういうことも考えた方がいいのではと思いました。</li> <li>● 学校や生涯学習のことについて、国からミッションのようなものが来るとありますが、市として、教育委員会として対応されると思うのですが、それを近江八幡市の教育委員会で、上手く自分たち流にカスタマイズというか、アレンジするような発想ができないのか、その方が使い勝手がいいのではないかと思います。組織の運営の話ですけど、縦割りというか、特に、今日のような点検・評価では、施策や取組が細かく分かれていて、成果指標を見て、評価するということで、それは仕方ないとしても、課題等について現場の知恵で乗り越えるような、今日も、何かの施策で「みんなで相談してプラットフォームづくりを今やっています」という話がありましたが、縦割りではなくて、時にはワークショップ等を行って、近江八幡ならではの新しい取組の知恵を出し合ってほしいと思います。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 施策11「教員の資質・指導力の向上と学校園の組織力の充実」の教職員の働き方改革は、すごく難しいとっていて、「ブラックな職場」と言われ、その言葉に飲み込まれてしまって、多忙ではないが多忙感を持</li> </ul>

委員 長	<p>ちすぎている人もいるのではないかと、「僕たちは、未来の日本をつくる子どもを育てている」というやりがいや使命感を持って、頑張っていると思っています。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今日のヒアリングで、記載内容の向こう側にある「こういう努力をしてきた」「こういう工夫をされていたのか」と想像できる場面がありましたが、これだけ読むとそのような理解ができないので、書き方を工夫いただいて、この施策の狙いがどこにあるのか、形式的な指標に引きずられると意図が分からなくなってしまうので、指標の向こう側にある意図が伝わる書きぶりに改良していただきたいと思います。点検・評価シートの作成は、自己点検、自分たちの仕事を振り返るためにということで、教育大綱や教育振興計画が改訂されても、指標だけでチェックする表面的な評価ではなくて、定量的評価と定性的評価の両方を、点検・評価シートに書き足していただければと思います。</li> </ul>
委員 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 委員長がおっしゃったとおり、自分たちの仕事の棚卸及び課題発見等に役立てるために、また、外部からの意見を伝えるために、この委員会があるので、それを生かせるように書き方の工夫をしていただきたいと思います。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今日の施策ヒアリングの冒頭に、「ダメ出しをする場ではないですよ」と何度も言わせていただきましたが、皆で知恵を出し合う場にすべきと思っていますので、各所属担当者の方も「どうしたらいいんだろう」という本音の正直なことを言ってもらった方がいいのかなと思います。</li> <li>● 点検・評価シートと成果指標を照らし合わせて評価したのですが、実績・課題・令和7年度の取組という流れがあれば、評価しやすいと思いました。それから、特別支援教育等における人材・人員不足という以外の業務改革がないのかと思った時に、外国人の子ども達への翻訳アプリの活用ということで、自分で翻訳アプリを使って解決することは、人に助けられていうことではなく、自分で頑張れた「やった感」「充実感」を感じられる、そうした施策が多くあったらいいと思っています。</li> </ul>
委員 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今日のヒアリングでは「まちづくり」という言い方をしましたが、自分が、この地域社会で期待されていることが実感できるような仕組みが必要ですし、様々な経験を通じて、地域の公共を担える人たちになってもらえれば、地域の教育とは、そういうことかなと思います。景観や商業施設等の「まちづくり」ではなく、長い時間をかけて、若者が地域を担ってくれる人に育てていく、みんなで育てていく、そういう仕組みの話なので、とても重要なことだと思います。</li> <li>● 近江八幡市が持っている歴史や自然等の資源がポジティブな評価になって、多くの方が「ここに住みたい」と感じて、「近江八幡っていいなあ」と思えるような生涯学習、経験や体験ができるような工夫を生涯学習課が中心になって考えてもらいたいと思います。</li> </ul>

4. その他（今後のスケジュール等の確認）

省 略

5. 閉会

省 略

終了時刻：17時00分